



写真から人口現象を読み解く

Every Picture Has Various Kinds of Information



平井 誠 (神奈川大学人間科学部 助教授 / 共同研究員) HIRAI Makoto

昨年4月から本プログラムに加わった。研究会やシンポジウムに参加する中で、景観やそれを写し取った写真資料について改めて考えることが多かった。

私は、少子化や高齢化など様々な人口現象の地域性に注目する人口地理学を専門としている。分析の際に人口統計を用いることが多いが、闇雲に統計データを使うわけではない。対象地域に入り景観を観察し、そこに現れた地域の人口特性をヒントとして分析に入ることも多い。そこでこの小文では、2006年9月に科研費の調査でアメリカ合衆国フロリダ州を訪れた際に撮影した写真から、地域の人口特性が空間に現れた例を紹介してみたい。

写真1は、フロリダ州のタンパから北西に70kmほど離れた地域に位置する住宅地域の入口である。このコミュニティは警備員が常駐するゲートが設置されているのみでなく、看板から分かるとおり居住者が55歳以上に限定されている点に特長がある。このように居住者を高齢層に限定した住宅地域（リタイアメントコミュニティ）の多くは、住宅のみでなくゴルフ場やプールなどのスポーツ施設、編み物や模型など各種の活動を行うためのクラブハウスも備えたものが多い。退職後の生活をスポーツや趣味などに活用しながら、ゲートによって安全を守られた生活を得ることができる。フロリダ州をドライブしていると、このコミュニティと同様に「Senior Community」、「55+Community」などと記した住宅地を数多く見ることができる。アメリカは高齢期に入ってから居住地移動が盛んであるが、一般的に冬の寒さが厳しい北部地域から冬でも温暖な南部 いわゆるサンベルト地域 へ向かう方向性が存在している。国土の南東部に位置するフ

ロリダ州は北部からの高齢者を受け入れる主要な到着地の1つであり、その結果、フロリダ州の高齢人口比率（17.6%）は全国（12.4%）を上回っている（数値は2000年人口センサスによる）。リタイアメントコミュニティは流入者の新たな居住の場として機能している。写真1に示された看板は、高齢者の流入地域というフロリダ州の特性を示しているのである。

写真2はタンパから東へ50kmほどの道路沿いに位置する果物の直売所である。フロリダ州は降水量が多く気候も温暖であるため、果樹や野菜の生産が盛んな地域である。写真にもバナナやパイナップル、トマトなどが写っている。写真の奥に女性がかがみ込んでいる姿が映っているが、そこにはトゲを抜いたサボテンが販売されていた（写真3）。乾燥地域に生育するサボテンがここで販売されているのは奇妙な感じを受けるが、この写真からは異なる食文化の流入が推測される。つまりサボテンを食材として利用する乾燥地域からフロリダ州へ人口が流入し、彼らの定着とともにサボテンも商品として販売されるようになったのではなからうか。フロリダ州は、非合法の入国者も含めヒスパニックの比率が高いことで知られる。とげ抜きサボテンの写真からフロリダ州における人口構造の変化を考えることができる。

写真を用いて分析する方々には当たり前のことを書き連ねてしまったが、統計数値で語ることの多い人口現象であっても、景観や写真を読み取ることで地域性を理解する手がかりを得ることができる。本プログラムでも写真資料が1つの核となっているが、そこから何を読み解くことができるのか、楽しみにしている。

写真1

リタイアメントコミュニティ入口



写真2

タンパ郊外の果物販売所



写真3

トゲを抜いたサボテン

